

第75回全国植樹祭が秩父ミュージックパークで開催されることを記念して、市街地で秩父祭と川瀬祭の笠鉾・屋台を特別公開します。
7月の川瀬祭と12月の秩父祭それぞれで曳き廻される笠鉾・屋台を5月25日に同日公開！
普段は3層の笠を付けずに曳き廻されている”中近笠鉾”と”下郷笠鉾”は本来の姿で公開します。
ぜひこの機会に、秩父を代表する2つのお祭りの笠鉾・屋台をご覧ください！

秩父祭

毎年12月2日・3日に行われる秩父神社の冬季例大祭。国指定重要有形・無形民俗文化財に指定されており、ユネスコ無形文化遺産にも登録されています。

豪華絢爛な6基の笠鉾・屋台が街中を曳き廻され、夜には10トン以上もある笠鉾・屋台が”団子坂”という急坂を曳き上げられ、祭りは最高潮を迎えます。

このお祭りは、秩父神社に立った絹織物の市、「絹大市」(きぬのたかまち)の経済的な発展と共に、盛大に行われるようになり現在に至ります。12月3日の大祭は、女神の妙見様と男神の龍神様が年に一度の逢瀬を行う日という伝承もあります。

曳き踊り

曳き踊りとは、屋台4基が決められた場所で屋台を止め、三味線による長唄に合わせて子どもが日本舞踊を演じる所作事です。三番叟、藤娘、鶴亀などが演じられます。

屋台芝居

宮地・上町・中町・本町4つの屋台町会は、毎年交代で歌舞伎の上演を行っています。この4基の屋台は、上手に本芸座、下手に仮芸座を組み立て、両脇に張り出し舞台を付けると、回り舞台を備えた歌舞伎舞台に変化します。



川瀬祭

毎年7月19日・20日に行われる秩父川瀬祭は、秩父神社の摂社・日御碕神社の例大祭。秩父地域では「お祇園」と呼ばれており、「秩父川瀬祭の川瀬と屋台の行事」として県指定無形民俗文化財に指定されています。

秩父祭が”冬の大人の祭”とされるのに対して秩父川瀬祭は”夏の子どもの祭”と言われており、屋台囃子や、笠鉾・屋台の上に乗る囃子手、拍子木を子どもたちが担う、子ども中心のお祭りです。

19日

午後から8基の笠鉾・屋台が秩父屋台囃子を響かせながら曳き廻されます。夕方からは、秩父神社に笠鉾・屋台が集結し、境内にある日御碕宮(ひのみさきぐう)に祀られている須佐之男命(すさのおのみこと)を迎える「天王柱立て神事」が行われます。

20日

午前中から山車が曳き廻され、昼頃には笠鉾・屋台が御神幸行列に先立ち、「お川瀬」に出発します。午後2時半すぎ頃、重量約400kgもの白木造りの神社神輿が荒川の清流の中へと入る「神輿洗いの儀式」が行われます。



第75回

全国植樹祭

埼玉
2025

人・森・川 つなげ未来へ 彩の国

令和7年

5月25日

主会場：秩父ミュージックパーク



式典会場イメージ(埼玉県提供)

公共交通機関

最寄駅

西武鉄道 | 西武秩父駅 / 秩父鉄道 | 秩父駅・御花畑駅